



認定看護師通信



認知症初期集中支援チームって知っていますか？

2019年7月発行
Vol. 26

初期集中支援チームとは・・・

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行うチームです。（最長6か月、その後は他のサービスにつなげます）

【配置場所】

地域包括支援センター等

診療所、病院、認知症疾患医療センター、市町村の本庁など

【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人

◆医療・介護サービスをうけていない人または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
- (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人
- (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人

◆医療・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

*入院患者で認知機能低下により、在宅での生活が難しい、家族で対応に困っている方など、当院の相談支援センターや認知症ケアチームに相談いただくと地域のサービスにつなげる支援を行っていきます。

文責：認知症看護認定看護師 宮崎 真寿美

あなたは「セルフケアの不足」と聞いてどんなことを想像しますか？



健康で障害のないあなたは、日常生活を不自由なく行っています。本当に、患者さんの「わずかな」できないが想像できていますか？

受け持った患者さんは脳梗塞で右上下肢麻痺MMT4です。自宅退院が希望です。今日は水曜日、シャワー浴です。ベテラン看護師である貴女は流れが頭に浮かびます。1回分の着替えを手さげに入れ、車椅子でシャワー室へ移動。健側から衣服を脱がせ左に設置したシャワーチェアに見守りで移乗する。シャワーで髪と体を介助で濡らし、タオルで洗体をする。前側と左手が届く範囲は本人にやってもらいます。洗い流した後タオルで拭き、衣服を一部介助で着せ、髪をドライヤーで乾かしたら終了です。患者さんもさっぱりして「ありがとう」と言っています。今の流れを聞いて、あなたはどう感じましたか？もちろん、介助量は適切であったか？という問いが浮かんできます。しかし、もう一つ！その前にするべき事があります。それは、シャワー浴の手順を考えます。この患者さんが自宅に帰る場合、他にどんな流れが想像できますか？1分間立ち止まって考えてみてください。・・・・・・・・・・・・・・・・想像できましたか？

例えば、入浴時間の決定、シャワーチェアの配置、浴室の室温、シャワー温度管理、着替えの選択、浴室への移動方法、臀部や足先、背部の洗体、スポンを履く、靴下を履く、ドライヤーの使い方、入浴物品の片付け、衣類の洗濯など、挙げればキリがないですが、健康な人ならみんなやっていることです。自宅では一人でシャワー浴する事はなりません。私たちは、看護師のペースのセルフケアと多職種で分業化された入院生活に慣れ、在宅に帰る患者さんの細かいセルフケアの不足がなかなか想像できないのです。もう一度在宅でのセルフケアを想像して介入してみてください。

文責：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 寺本 清美